

認証評価結果の条件に対する改善報告書

平成 26 年 7 月 29 日

1. 大学名：筑波学院大学

2. 認証評価実施年度：平成 22 年度

3. 「条件」及び関連する「改善を要する点」の内容

【条件】平成 22(2010)年度に改組した経営情報学部が 1 年目にして大幅な定員割れとなったことに関して、平成 26(2014)年 7 月末に同学部の完成年度である 25(2013)年度の収容定員の充足状況に関する改善報告書（根拠資料を含む）を提出すること。

【改善を要する点】

基準項目：4

- ・改組して1年目にも関わらず、入学定員を大幅に満たしていない点について、学生定員確保に向けて一層の抜本的な対策を講じるよう改善が必要である。

4. 改善の経過及び結果

改組 1 年目の平成 22 年度は、受験生、高校への周知が行き渡らなかったことにより学生確保ができなかったことの反省から、平成 23 年度以降、入試制度、経済支援、広報活動について、次のような広範な対策を実施し、学生確保を目指した。

I. 平成 23 年度から平成 25 年度の対策

1. 入試制度の改革

受験生の多様な特性に応じられるよう A0 入試を改革し、平成 23 年度入試からセミナー型、平成 25 年度入試から作品型を導入した。

平成 23 年度入試から、指定校推薦入試、平成 24 年度入試からセンター試験利用入試の導入により受験機会を増やしている。

2. 経済支援の策定

平成 22 年度入試から特待生制度導入、平成 23 年度入試から奨学生指定校推薦入試、平成 24 年度からは、つくば市に住居を移転する学生への支援として「つくばで暮らそう奨学金」を導入した。

また、東日本大震災への特別措置として、被災地からの受験生への検定料無料化、被災学生への授業料減免を実施。

3. 募集戦略の充実

平成 24 年度、県内約 150 校のうち本学に継続的に入学者のある重点校 30 校を選定し、高校訪問を強化した。

オープンキャンパス時に保護者用のカフェを開き、教員との懇談の機会を設けた。

## 筑波学院大学

茨城県企画部、教育委員会の協力を得て高校への働きかけを強化したことにより入学者の数が増加（平成 23 年度 139 名、24 年度 165 名）し、平成 22 年度 56.1%であった収容定員充足率は、平成 23 年度 58.0%、24 年度 60.9%と上昇した。しかし、平成 25 年度には入学生数が減少（99 名）し、充足率は 62.2%にとどまり、目標とした 70%には達しなかった。

### 4. 広報戦略

平成 24 年度、女子生徒向けリーフレット及び保護者向けリーフレットを作成、ホームページの改善など、ビジュアルによる広報を強化した。

### 5. カリキュラム改革

上記の学生募集に直結する入試及び広報の改革と同時に、入学者確保のためには学生の満足度を上げ、出口対策である就業力育成が重要であるとの見地から、カリキュラム改革等学内改革に注力した。

平成 25 年度に、経営情報学部の完成年度を迎えることを踏まえ、平成 23 年度、教授会の中に将来計画検討小委員会を設置し、学生ニーズに応える新しい科目の設定、内容が重複している科目の統合整理、時間割の変更、シラバスの整備などのカリキュラム改革を検討した。

### 6. 学生支援の拡充

学生支援を厚くするために、平成 24 年度から、担任によるクラスミーティングを時間割に正式に組み込み、平成 25 年度から、ポートフォリオの導入、学生カウンセラーの充実などの改善を図った。平成 24 年度からは学食改善プロジェクトとしてメニューの改善や地産地消の導入、また平成 25 年度には朝食サービスを試験的に実施し、平成 26 年度からは本格実施している。

## II. 魅力ある学部に向けての改革

以上のとおり広範な取組みにもかかわらず、平成 22 年度認証評価において、貴機構から認定に当たり【条件】としてお示しのあった収容定員の充足について、平成 25 年度までに十分な改善が図られなかった。この原因は、24 年度までは新たな経済支援が効果をあげたが、平成 25 年度は、本学内の学生満足度の把握が十分でなく、カリキュラム改善の停滞による魅力度の低下、改善のスピード感の欠如等の要因が重なり、激化する入試状況に対応しきれなかったことによると分析している。厳しい学生募集状況に対処するため、平成 25 年度、学外の有識者で構成される「筑波学院大学の改革のための有識者会議」を設置し、今後のあり方について報告を得た。

平成 26 年度の入学者数（104 名）はやや改善したものの、収容定員充足率は、62%に過ぎず、今後、カリキュラム改革及び抜本的な学部改革が不可欠な状況にある。カリキュラムの改革の柱として、履修モデルとして 3 つのコース(系)を設けていた

## 筑波学院大学

が、平成 27 年度は 4 つのコースに拡充することとしている。

新しいコースとして、社会的ニーズの高い英語コミュニケーション、観光、多文化社会、セラピー及び「つくば市をキャンパスに」した社会貢献活動を体系化した地域コミュニケーション等を学ぶ「ビジネスコミュニケーション」を設け、多様化する学生の興味に対して質の高い実務系教育を提供し、学生確保の範囲を広げていく。

平成 27 年度にむけ、現在、オープンキャンパスの参加者は、昨年、一昨年に比べ増加しており、定員に見合う学生確保に全学挙げて取り組むが、本年度の学生募集状況により、現学部の存続・充実、学科増など学部改革、設置者の変更、東京家政学院大学との統合、学生募集の停止などを含め、今後の進むべき方向について、今年度中に方針を決定することとしている。

### 5. 根拠資料

1. 入試ガイド (2010～2014)
2. 大学案内 (2010～2014)
3. 部局長会議議事要録 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 6 月)
4. 入学者選抜委員会議事要録 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 6 月)
5. 広報戦略委員会議事要録 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 6 月)
6. 将来計画検討小委員会メモ (平成 25 年 7 月～平成 26 年 2 月)
7. 学生委員会議事要録 (平成 25 年 7 月～平成 26 年 5 月)
8. 筑波学院大学 オープンキャンパス参加状況等
9. 生活補助費「つくばで暮らそう奨学金」チラシ
10. 「一人ひとりに対応できるきめ細やかさ受験生のための経済支援」チラシ
11. 女子生徒向けリーフレット
12. 保護者向けリーフレット (2014～2015)
13. 授業時間割 (平成 25 年度～平成 26 年度)
14. 学生ポートフォリオ書式
15. 朝食サービスリーフレット
16. 筑波学院大学の改革のための有識者会議報告
17. 学部学生内訳票、学生教職員等状況票 (平成 22 年度～平成 26 年度)